第 22 回 維持管理セミナー　―デジタル技術を活用した地下空間のマネジメントに向けて―

●行事コード：5426051
●日時：2026 年 11 月 2 日（月）現場見学会　10:00～11:50
　　2026 年 11 月 2 日（月）セミナー　　13:10～17:30（12:40 受付開始）
●概要：
　土木学会地下空間研究委員会維持管理小委員会では、「地下構造物の維持管理」に関して早くから問題意識を持ち、１９９６年度から今まで様々な取り組みを行ってきました。そして、それらの研究成果を、広く維持管理実務の一助となることを願って、書籍（地下空間ライブラリー）の出版，地方都市におけるセミナー開催（１５都市：延べ２１回開催）等により、外部に発信する活動を積極的に行ってきました。今回、その活動の一環として、主に「社会インフラの維持管理」に携わる土木技術者を対象に、セミナーを開催いたします。今回のセミナーでは、昨今著しい発展を遂げている「デジタル技術や AI を活用したインフラ施設のマネジメント」およびデジタルアセットマネジメントの最新の研究成果や動向、活用事例について話題提供いただくとともに、建設業における生産性向上、働き方改革に向けた討論を実施します。会員・非会員を問わず、社会インフラ施設の調査・設計・施工および維持管理実務に携わる方々のご参加をお待ちしております。なお、本セミナーは、土木学会継続教育（CPD） 5.4 単位です。
●主催：公益社団法人 土木学会 地下空間研究委員会（担当：維持管理小委員会）
●セミナー会場：長野市 生涯学習センター 大学習室１（長野市大字鶴賀問御所町 1271-3）
●プログラムおよび講師：

【第１部】現場見学会 長野電鉄現場見学会（10:00～11:50）

（タイムスケジュール）
10:00 ：集合　※集合場所：長野電鉄 長野駅地下改札口前コンコース
10:00～10:10：概要説明
10:10～11:10：現場見学（長野駅、善光寺下駅地下構内）
11:10～11:30：質疑応答

【第２部】セミナー（12:40 開場、13:10～17:30）会場：長野市生涯学習センター（大学習室１）

セミナー（12:40 開場、13:10～17:30）会場：長野市生涯学習センター（大学習室１）
13:10～13:25：開会挨拶および委員会活動の紹介　坂井康人 維持管理小委員会 委員長
13:25～13:55：BIM/CIM の本質と地下インフラ維持管理への活用　矢吹信喜（東京都市大学）
13:55～14:25：国土交通省における BIM/CIM の取組みと今後の展開　藤本陽一（国土交通省）
14:25～14:55：地下インフラの諸課題と DX の実装化に向けた方向性　塚田幸広（アジア航測㈱）
14:55～15:10：休　憩
15:10～15:40：長野県における DX の取組み -信州 BIM/CIM 推進協議会-　折井貴臣（長野県）
15:40～16:10：NEXCO 東日本のＤX の取り組み　加藤哲/日下寛彦（NEXCO 東日本）
16:10～16:40：地下空間におけるインフラマネジメントのあり方 -協調領域と競争領域-　坂井康人（京都大学/阪神高速）
16:40～17:30：パネルディスカッション
○パネリスト（五十音順）：折井貴臣（長野県）、坂井康人（京都大学/阪神高速）、中村雅範（NEXCO 東日本関東支社長野管理事務所）、藤本陽一（国土交通省）、矢吹信喜（東京都市大学）
○コーディネーター：塚田幸広（アジア航測㈱）

＊講演タイトル・講演者につきましては、変更となる場合がございます。予めご了承ください。

●参加費：無料
●土木学会継続教育（CPD）：5.4 単位
＊土木学会で証明する単位が各団体のルールにより認められない場合があります。予めご了承ください。
●申込方法：土木学会 HP（https://www.jsce.or.jp/events）「本部主催の行事申込」にてお申込みください。
＊「現場見学会（長野電鉄現場見学）のみ参加」の申し込みはできません。
現場見学会に参加される方は、セミナーにも必ず参加お願いいたします。なお、「セミナーのみ参加」を

ご希望の方は、必ず「セミナー参加者専用」の行事申込にて申し込みお願いいたします。

●定員：25 名

●申込締切：2026 年 10 月 26 日（月）

●問合せ先：公益社団法人土木学会研究事業課（TEL 03-3355-3559）担当：田村幹貴（m-tamura@jsce.or.jp）

●詳細・資料：当日資料については開催日 1 週間前程度に地下空間研究委員会ホームページ（http://www.jsce-ousr.org/）にアップします。“資料をダウウンロードまたは持参の上セミナーにご参加ください。会場での資料の配布は行いません。”